

2025 年 12 月 19 日（金） 二学期 終業式 校長式辞

みなさん、おはようございます。本日をもって、令和7年度二学期が終業となります。

二学期は猛暑の中で始まりましたが、文化祭では、みなさんが高校生として「今」しかできないことに真剣に取り組む姿が輝いていました。学校祭後も、学習や部活動、そして進路に向けた努力など、多くの場面で、みなさんが頑張る姿を見ることができました。

3年生は、進路決定に向けて全力を尽くし、すでに結果をつかんだ人、これから大きな試練を迎える人もいます。互いに応援し合える環境をつくりながら、それぞれが自分の挑戦に向き合ってほしいと思います。この二学期、長く感じましたか？それとも短く感じましたか？

時間の感じ方についての研究で「人生の折り返し地点はどこか」というテーマがあり、さまざまな説がありますが、その中の一つに「人生の半分は10歳までだ」という説があります。なぜでしょうか。

10歳までの人生は、初めてのことだらけです。初めて歩く、初めて話す、初めて友達ができる、初めての学校生活。毎日が新鮮で、時間はとてもゆっくり流れます。

ところが、それ以降はどうでしょう。私たちは、これまでの経験をもとに想像し、予想しながら生きようになります。すると、時間は「するする」と流れていくように感じるのです。

では、時間をもう一度ゆっくり進める方法はあるのでしょうか。私は、あると思っています。

それは、新しいことをやることです。しかも「ちょっと緊張するな」「失敗するかもしれない」「できるかどうか不安だな」と感じることに、あえて挑戦することです。

人は頑張っているとき、挑戦しているとき、一日の中に起こる出来事が増えます。考えることも、悩むことも、工夫することも増える。だから時間がゆっくり流れる。結果として、人生は“長く”感じられるのです。

さて、二学期の皆さんはどうだったでしょうか。新しいことに挑戦できたでしょうか。

ここで、後悔についての話を一つします。

「やってしまった後悔」は日ごとに小さくなり、やがて思い出になると言われています。一方で、「やらなかった後悔」は日ごとに大きくなるとも言われています。「あのとき、やっておけばよかったな」—この気持ちは、時間とともに強く残ります。

実際、統計には「何回目の失敗であきらめたか」というデータがあります。多くの人は、一度も失敗する前にやめてしまう。「できるかな」「続けられるかな」と心配して、挑戦する前に止まってしまうのです。

だからこそ大切なのは、怖がらず、悩みすぎず、まず始めてみることです。

成功に越したことはありません。しかし、失敗もすべて成長のもとです。実は、成功と失敗はまったく別のものではありません。同じグループにあります。

**成功の反対は失敗ではありません。
成功の反対は『何もしないこと』です。**

ある人が、成功を多く経験した人からこんな助言をもらったそうです。

「成功へのチャンスはどこにあるのか？」と聞いたところ、こう返されたそうです。

「人の失敗の後を探してごらん。そこにチャンスはある。」

誰かが失敗したということは、そこに行動しようとした理由があり、熱量があり、情熱があり、可能性があったということです。失敗の後には、必ず学びとチャンスが残っています。

ぜひ、新しいことを一つ、自分の人生にまぶしてみてください。小さな挑戦で構いません。失敗しても構いません。何もしないより、ずっと価値があります。

前向きな挑戦をしながら、長く感じる冬休み、そして新しい年を迎えてくれることを期待しています。

京都府立綾部高等学校 校長 一井 育